

一番茶の直掛け被覆期間が二番茶の生育・収量に及ぼす影響			
[要約] 二番茶の生葉収量は、一番茶期の直掛け被覆期間が長いほど増加する。また、一番茶期の被覆期間が長いほど二番茶芽の芽長のバラツキが増加し、芽揃いが悪くなる。			
農業総合センター・茶業指導所・茶振興担当		「実施期間」 平成14～16年度	
[部会] 農産	[分野] 高品質化技術	[予算区分] 県単	[成果分類] 指導

[背景・ねらい]

近年、直掛けによるかぶせ茶生産が増加しているが、被覆処理が次茶期の茶樹の生育、樹勢に及ぼす影響が懸念されている。そこで、直掛け被覆によるかぶせ茶の安定生産のために、一番茶の直掛け被覆が、二番茶の生育・収量等に及ぼす影響について検討する。

[成果の内容・特徴]

一番茶の被覆期間が長いほど二番茶芽の出開きが進み、全窒素、遊離アミノ酸含有率が低くなる傾向がみられることから、一番茶の直掛け被覆により二番茶芽の成熟がやや早まる(図1)。

二番茶の生葉収量は、芽数の増加などの要因で、一番茶期の被覆期間が長いほど増加する傾向がある(図1、図2)。

二番茶新芽の生育のバラツキを、芽長・葉数の変動係数で評価したところ、二番茶で被覆を行った場合、一番茶期の被覆期間が長いほど二番茶芽の芽長の変動係数が大きくなる傾向がみられ、芽揃いが悪くなる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

現地の指導資料として活用するが、連年被覆による影響は補完調査する必要がある。二番茶の芽揃い向上のため、別試験で一番茶後の整枝法について検討する。

[ 具体的なデータ ]

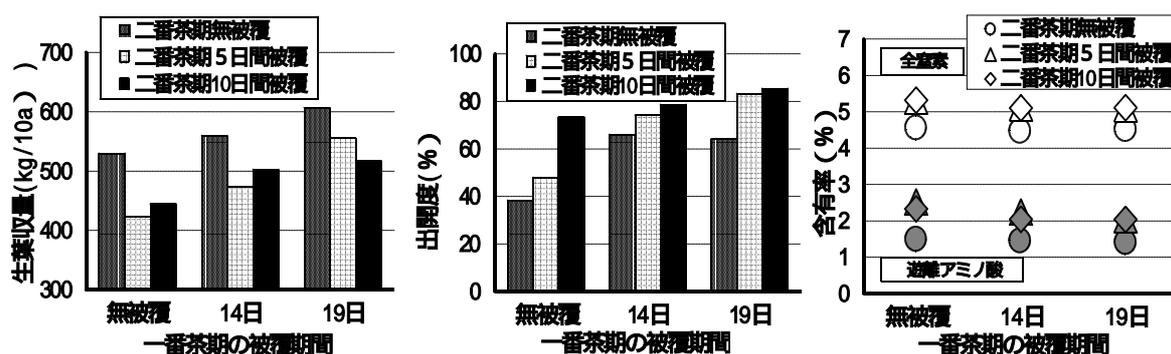


図1 一番茶期の被覆期間が二番茶の生葉収量、出開度および成分含有率に及ぼす影響

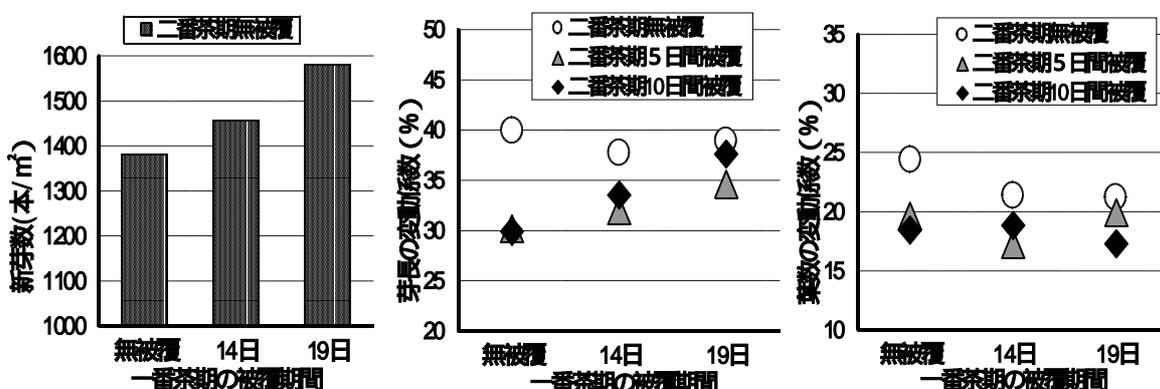


図2 一番茶期の被覆期間が二番茶の新芽数および芽長と葉数の変動係数に及ぼす影響

[ その他 ]

・ 研究課題名

大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

・ 研究担当者

竹若与志一 (H16) 忠谷浩司 (H14~15)

・ その他特記事項

成果の一部を、平成15年度日本茶業技術研究発表会で発表